

離任された先生

令和2年・2020年度	令和3年・2021年度	令和4年・2022年度
久和人（教育庁教職員室教職員企画課） 富井 篤（国・退職） 服部高明（数・高槻北） 橋爪勇一郎（首席・茨木工） 玉井岳史（英・教諭退職） 川村拓也（機・布施工） 田村 一（機・成城） 山田仁史（機・退職茨木工定） 武智弘樹（電・藤井寺工） 鶴井秀樹（電・教諭退職） 藤田 清（電・教諭退職） 池淵洗輔（美・期付） 島本公仁（電・期付） 山本郁夫（化・期付） 藤田由紀夫（体・再任退職） 河野吉則（電・再任退職） 上迫真理子（電助・再任退職）	河井茂美（事務部長・再任退職） 村瀬径介（指導教諭・茨木工） 相良 周（数・退職） 田所大昂（数・吹田東） 赤穂和則（理・槻の木） 藤田祐美（英・教諭退職） 丹治由美子（英・教諭退職） 片山 滋（機・退職） 木村大貴（機・城東工） 藤本和男（機・期付） 中村隆夫（電・教諭退職） 上本嘉明（臨時技師・退職） 野口英機（技師・再任退職）	井上直人（准校長・茨木工定） 龍 忠男（教頭・今宮工） 光武厚子（国・再任退職） 村上雄哉（理・福井） 石山雄敬（体・箕面東） 清水至中（機・西野田工） 高林正幸（機・教諭退職） 長谷川義昭（機・期付） 北條雄大（電・兵庫県立西脇工） 津村明寿（化・堺工） 八反田誠二郎（化・神戸市立科学技術） 吉岡宏文（化・滋賀県立八幡工）

卒業生数

大阪府立茨木工業高校（1～42期）

機械工学科	6,393 名
電子工学科	4,175 名
工業化学科	2,004 名
環境化学科	507 名

卒業生総数 合計 13,079 名

大阪府立茨木工科高校（1～15期）

機械系	1,593 名
電機系	863 名
環境化学システム系	671 名
工学系	143 名

卒業生総数 合計 3,270 名

編集後記

隔年に発行しています茨陵会新聞も第11号を迎えました。
創立60周年に校内では先生方が準備にお忙しい中、データのご提供などご協力いただき発行にこぎつけました。

ぜひ、母校の現況をご覧いただき、これまで以上に母校への応援をいただきますようお願い申し上げます。

（編集担当：工業20C 諏訪 年信）



SHI RYO KAI 茨 陵 会

VOL.11

2022.10.10 発行

茨陵会事務局

大阪府立茨木工科高等学校内

〒567-0031 茨木市春日5丁目6-41
TEL:072-623-1331/FAX:072-623-0652



茨木工科高等学校 創立60周年



～文化祭のお知らせ～

今年の文化祭は、**11月5日（土）**に予定されています。

ご来場の際は、コロナ対策の内容及び入場制限等について

学校ホームページをご確認の上お越し下さい。

◆学校HP URL: <http://ibaraki-kouka.jp/>

茨木工科高校のホームページ
<http://ibaraki-kouka.jp/>



茨陵会のホームページ
<http://www.shiryokai.com/>





茨陵会会長 本津 茂樹

茨陵会会員の皆様にはご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。私は4代目の茨陵会会長をお引き受けして8年目になります茨木工業高校6期 E 科卒業生の本津茂樹と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

茨陵会は茨木工業高校と平成17年に再編成された茨木工科高校の卒業生からなる同窓会組織で、現在会員数は約1万6300名となり、産業界をはじめ官公庁、自営業等においてご活躍され、広く社会に貢献されておられますことは、卒業生の一人として非常に喜ばしい限りです。

昭和38年に10番目の府立の工業高等学校として設立された我が母校は、今年60周年を迎えることになりました。記念祝賀会の開催も視野に入れておりましたが、学校側との協議の結果、コロナ禍という社会情勢もあり、残念ですが大きな記念式典は開催しない運びとなりました。

私が在学していた1960年後半の工業高校は、ものづくり日本を支える中堅技術者の養成が目的でしたが、その後のバブル崩壊による技術の国外流出や製造業の弱体化により専門性の高い技術者の養成が目的となりました。そして今、政府が提言する AI（人工知能）と IoT（モノのインターネット）を基礎とする第5の産業革命 Society5.0 に対応できる人材の養成が喫緊の課題となっています。

また、新型コロナウイルスの出現からライフスタイル

茨陵会会員の皆様にはご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

私は4代目の茨陵会会長をお引き受けして8年目になります茨木工業高校6期 E 科卒業生の本津茂樹と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

茨陵会は茨木工業高校と平成17年に再編成された茨木工科高校の

卒業生からなる同窓会組織で、現在会員数は約1万6300名となり、産業界をはじめ官公庁、自営業等においてご活躍され、広く社会に貢献されておられますことは、卒業生の一人として非常に喜ばしい限りです。

昭和38年に10番目の府立の工業高等学校として設立された我が母校は、今年60周年を迎えることになりました。記念祝賀会の開催も視野に入れておりましたが、学校側との協議の結果、コロナ禍という社会情勢もあり、残念ですが大きな記念式典は開催しない運びとなりました。

私が在学していた1960年後半の工業高校は、ものづくり日本を支える中堅技術者の養成が目的でしたが、その後のバブル崩壊による技術の国外流出や製造業の弱体化により専門性の高い技術者の養成が目的となりました。そして今、政府が提言する AI（人工知能）と IoT（モノのインターネット）を基礎とする第5の産業革命 Society5.0 に対応できる人材の養成が喫緊の課題となっています。

また、新型コロナウイルスの出現からライフスタイル

に大きな変化があり、学校教育のあり方そのものまで変えてしまいました。さらに、平成31年から始まりました少子化に伴う大阪府立・市立高等学校再編整備計画は工業高校・工科高校においても生き残りをかけた大きな学校・教育改革を求めています。

このような社会情勢の中であって、我が母校が養成すべき人材像がより明確になったと言えます。すなわち、Society5.0 に沿った技術革新や DX（デジタルトランスフォーメーション）等に対応できる人材の養成がこれからの母校が目指す目的であり、そういった意味でこの60周年は母校にとって大きなターニングポイントの年になると言えます。

このような社会情勢の中で、母校は平成26年にこれまでの3つの専科に新しく工学系大学進学専科を設置し、大学進学によりさらに高い専門性を持った技術者の育成も視野に入れた高大連携型重点校に進化するとともに、再編整備計画に沿って IoT 技術者の養成に着手され、PBL（課題解決型学習）や IT 学習を導入されました。このような母校の変革を私は学校協議会の委員として身近で見て参りましたが、そこには杉山校長はじめ歴代校長先生や先生方、職員の方々の頑張りや熱心な取り組みがあり、本当に頭が下がる思いです。これからもやるべきことは山ほどありますが、同窓会として応援・支援していきたいと思っています。

最後になりますが、この60周年を機に更なる母校の発展を祈念したいと思います。そして、母校のために少しでも力になれる同窓会の構築と更なる発展のために、微力ではございますが会員同士の親睦を深めながら、同窓会の運営に尽くしていきたいと考えておりますので、今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

事態が生じた場合には、速やかなリスク回避の措置を講じたいと思います。

また、感染症対策のため様々な制約を受ける中、生徒たちは部活動や「ものづくりコンテスト」など各種大会に参加し、頑張っています。資格取得においても、日頃の地道な努力の積み重ねを遺憾なく発揮し、各系で取得できる様々な国家資格取得にチャレンジをしています。

そして、3年生の進路については、毎年就職希望者全員の内定が早期に決り、また、進学希望者は推薦枠等による大学への進学を実現し、素晴らしい成果を上げてくれています。

これからも、「友情協力・自主創造・誠実明朗」の校訓のもと、「他者を尊重し、人間性豊かで、勤労と責任を重んじる社会人の育成と産業構造の変化に対応できる、幅広い技術を備えたスペシャリストを育成する

とともに、基礎学力を重視、資格取得や大学等の高等教育機関への進学を目指します」を目標に掲げ、教職員一丸となり自立できる力と社会に貢献できる力の育成に取り組んでいきます。

そして、それに伴い、学校の学びの在り方にも大きな変革が求められています。今年度からは、新学習指導要領に基づいた教育課程がスタートし、「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」が求められています。一人一人の生徒に応じた学習活動や進路



教頭 梶田 英志

茨陵会の皆様には日ごろより本校の教育活動にご理解ご支援をいただき誠にありがとうございます。

本年4月に着任いたしました梶田英志でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は平成元年より11年間本校機械工学科の教諭として在職していました。その間、工業29期M2組の担任を3年間務め卒業生を送り出しました。クラブ活動では平成元年から平成5年の6年間はバスケットボール部。平成4年から平成11年の8年間は陸上競技部の顧問を務め生徒



事務部長 植木 邦博

茨陵会の皆様には日頃から本校の教育活動に対して特段のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本年、本校は前身の府立茨木工業高等学校から数え創立60年という節目の年を迎えますが、これまでに本学舎を巣立たれた卒業生はおよそ16,700名を超え、グローバルな様々な分野でご活躍される人材を多数輩出してまいりました。これもひとえに本校で学ばれた生徒の皆さん一人ひとりのたゆまぬ努力・向上心、その熱意に応じてこられた諸先生方のご指導、さらには同窓生、保護者、関係各位の皆様の御支援・御協力の賜と深く敬意を表します。

伝統ある本校で学ばれた皆様方に今蘇ってくるの

希望に対応した教育活動、進路相談などを推進することを通して、「できた」という達成感や自己肯定感、学ぶ喜びを感じることができるよう努めてまいりたいと考えています。

これからも生徒の夢の実現に向けて、また地域の皆様に愛され、信頼される学校づくりに努めますので、茨陵会の皆様には、今後も本校の教育活動により一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

たちと共に汗を流しました。また、11年の間に生活指導部・進路指導部・特別活動指導部に所属し諸先輩方と共に生徒達のことを一番に考えて過ごした日々が懐かしく思い出されます。当時とは職員室などの配置やカリキュラムも大きく変わり、懐かしさを持ちつつ新たな勤務先として気を引き締め、これまでの経験を基に微力ではございますが在校生がより安全で安心な学校生活を送ることができるように精一杯頑張っていく所存でございます。

そして、在校生の皆さんがものづくりや資格取得・クラブ活動を通して明るく楽しい学校生活を送り「茨工に進学してよかった」と笑顔で過ごせるように。また、茨陵会の皆様の母校への安心感に繋がるように。更なる環境の改善に取り組んでまいりたいと考えています。よろしくお願いいたします。

は、本校在校当時に培われた友情であり、一緒に学び、一緒に遊んだ仲間との強い心のつながりではないでしょうか。友達は人生の財産、人生の宝とも言われますが、本校で培われた変わる事のない友情が今日までお互いの励みとなり、心の支えとなってきたという方も多いのではと思います。

さて、近年のグローバル化、技術革新の急速な進展、産業・社会構造の大きな変化、さらには大学進学志向の高まり等の人々の意識や価値観の変化等に伴い、本校を取り巻く環境も大きく変わってきております。

今後とも、本校が地域社会の成長を支える職業人材の育成、将来の高度技術者の育成という役割を担っていくことができるよう取り組んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、茨陵会のますますのご発展、会員の皆様方のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。



こんにちは！ 工科13Tの陣内 純香です。
母校を卒業後、ご活躍の先輩方にインタビューした記事をご紹介します。
これは、2021年7月に学校が中学生、その保護者、中学校教員に皆さんに
母校の紹介を行うリーフレットに掲載されたもので、転載を許可頂いたものです。



関西大学 化学生命工学部
化学物質工学科
青木 竜也さん
(工学系 2017年度卒)

Q どんな高校生活でしたか？

A 普通の授業と工業の分野も学べて良かったです。座学と実習で気分を変えることでどちらも集中できたかなって思いますね。
部活では人工衛星のことを調べて理解し、最終的には自分たちで作るというのを目標にしたSST.R&D部に入っていました。全国の工業高校で人工衛星を作るというプロジェクトのためのものを作ったり、缶の中に人工衛星のシステムを模したものを搭載して、大会で80メートルぐらい打ち上げてデータを取って、その技術力とプレゼンテーション力を競う「缶サミット甲子園」という大会に出場しました。

Q 今は何を学んでいますか？また、これからの夢を教えてください。

A 内容としては高校の化学をより深く学んでいくという学科ですね。卒業生は研究職が多いです。高校の実習で自分の適性を知ることができたので学部を決めやすかったと思います。将来はまだ決めていないのですが、人工心臓とか医療分野の研究職や環境とか水質の仕事などに興味があります。

Q どんな高校生活でしたか？

A 専門教科が多くてびっくりしたのと、やっぱり男の子が多いなと思いました。覚悟はしていたんですけど、こんなに男の子に囲まれて大丈夫かな～って思いました。でも最初の1週間は気になりましたけど、後は全然大丈夫でしたね。
1番良かったのは、電気工事士の第二種・第一種やフォークリフトなど将来に役立つ資格が取れたことです。

Q 今の仕事を選んだのはなぜですか？

A 入学時は機械系志望で入ったんですけど、クラブ顧問の先生に「電気系もいいよ」と聞いて、電気系行つてそこから「電柱のぼりたい!」と思い関西電力に入りネットワーク技術の職に就きました(笑)。
電柱に登っての事故復旧とか保全作業、災害が起きたときとかは、現場に行くというお客様に近い「配電」に配属されて、今は研修中です。電柱に登れてめっちゃ楽しいです!女子で初めての作業長を目指して頑張っていこうと思っています。



関西電力株式会社
ネットワーク技術部門勤務
小野 ななほさん
(電気技術専科 2017年度卒)



芦森工業株式会社
※インタビューの時は在校生でした。
川勝 駿さん
(機械系 2018年度卒)

Q どんな高校生活でしたか？

A 社会人の方も授業にきてくれたので、会社のことや 学校外のことが学べ、とてもいい力になったと思っています。また、機械系の先生はみんな優しく、そこもいいところだと思います。ここを選んで間違っていなかったと120%いえるので良かったです。

Q 進路は決まっていますか？

A 決まりました。色々調べていく中で、父が車関係の 仕事だったことから、やっぱり車の仕事をしたい、人の役に立つものを作りたいと思い、車のシートとエア バックを作っている会社の見学をさせてもらいました。衝突実験などをしていて、人の命を守るものを作るこの仕事なら、やりがいがあるって責任感が持てるいい仕事 だなと思って決めました。



大幸薬品株式会社
品質管理部 QC グループ
竹内 ねねさん
(環境化学システム系 2017年度卒)

Q どんな高校生活でしたか？

A 凄く思い出の詰まった高校生活でした!正直初めは学校に馴染める気がなかったのですが、学年が上がるにつれ環境にも慣れて楽しくなってきました。実習は他の学校ではあまりしない化学の実験をして実践することで頭にも入りやすくて学びやすかったと思います。文化祭行事なども自分たちで1から始めるのでクラスメート達と団結して準備したりして楽しかったです!

Q 今の仕事を選んだのはなぜですか？

A 最初は何も考えてなかったんですが、学校で習った化学の知識を活かせる仕事に就きたいと思うようになりました。化学の分野の中でも製造に関わる仕事がしたいと思い、その中でも医薬品の製造である今の仕事に惹かれて選びました。今は製造から品質管理に異動になりましたが、製造にいる頃よりも化学の知識が必要なので学校で習った知識が役に立っています。

最近の母校の動向



5～6ページでは、茨工の最近導入された設備の一部をご紹介します。

機械系



Department of Mechanical Engineering

機械系では、機械設計や機械製図、機械工作などを座学で学び、旋盤、フライス盤などの汎用工作機械や、マシニングセンタやターニングセンタなどのNC工作機械を実習で学びます

Student Voice

機械系の実習では、様々な工作機械を使って金属を加工したり、それとは異なり、自分の手で金属を加工したりする手仕上げなどがあります。他にも金属どうしをくっつけるガス溶接やアーク溶接、パソコンを使って製図を行うCAD などの実習があります。最初はやり方がわからず何度かつまずいてしまいましたが、先生がわかりやすく教えてくださるので、初心者の人でも簡単にできます。機械系では、様々な資格も取得できます。たとえば、ガス溶接やアーク溶接などの溶接関係の資格やボイラー取扱技能講習、フォークリフトなどの資格も受験することができます。



既存PLC実習装置更新・IOT実習ソフト



万能試験機



溶接ヒューム集塵機

電気系



Department of Electrical Engineering

電気系では、電気技術の基礎から電気工事の技術やコンピュータ制御の技術など、電気に関する幅広い知識を学びます。

また、各種資格取得を奨励しています。とくに卒業までに第2種電気工事士の資格取得をめざしています。

Student Voice

電気系では、就職に役立つ資格がたくさんあります。2年生ではみんなで第2種電気工事士の資格を取得するため、助け合いながら全員合格をめざして頑張っています。実習では、回路を組んで数値を測定したり、パソコンを使ってプログラムを組んだりします。個性豊かな先生が多く授業もすごく楽しいです。



デジタルオシロスコープ



レーザー加工機



リレーシーケンス実習装置

環境化学システム系



Department of Environmental and Chemical Systems

環境化学システム系では、地球上のあらゆる物質・生命を化学的な視点から学習します。学習面では環境化学を中心に、地球環境からバイオテクノロジーまでを学びます。また実習では、高度な分析機器による成分分析、バイオリアクターによるアルコールの製造、有機合成で医薬品成分の製造などの実習を行います。

Student Voice

環境化学システム系では、一週間に一度、6時間連続の実習を行います。最初は実験器具・薬品・装置の使用法や目的を学び、その後は医薬品の合成や水の分析、陽イオンの分属などの実験を行います。3年では酵母などを使って、バイオテクノロジーの実習も行います。資格については、先生が講習会を開いてくださいます。僕も1回目では合格することができなかったけど、2回目の試験では合格することができました。実習では、レポートを書いて提出するのは大変ですが、提出した時の達成感は大きいものがあります。環境化学システム系では様々なことが経験できるので、入ってよかったと思います。



ポリメラーゼ連鎖反応



バイオリアクター



蛍光X線分析装置

60th Anniversary



大阪府立茨木工業・工科高等学校は今年創立60周年を迎えました。

これを記念し、創立60周年記念事業委員会が発足しました。そこでは記念品の寄贈、学校行事への補助、記念誌の作成が決まりました。60周年記念誌は、50周年からの10年間の学校のあゆみをまとめとりくみで、工科高校の先生方の協力を得て作成しています。今後の学校の歴史を残す上でとても重要なとりくみです。茨陵会は、この大切な記念事業の支援を行っています。

(創立60周年記念事業委員会 高林 正幸)

茨陵会 理事会だより

茨陵会は、会則により理事が運営権を受託しており毎年1回理事会を開催して以下の事柄について審議を行っています。また、会則変更など必要に応じて総会を開催します。令和4年は6月4日(土)13時より母校会議室にて次の事柄を審議、承認しました。

- ① 令和3年度 会計決算の報告、承認
- ② 令和4年度 会計予算の提案、承認
- ③ 令和4年度卒業記念品について提案、承認
- ④ 本年の新聞発行について
- ⑤ その他 (役員人事及び役割分担など)

右の写真は現在の理事です。



諏訪理事、杉本理事、高林理事、川崎理事
高嶋副会長、長谷川理事、本津会長、堀田理事

決算報告

令和3年度 茨陵会 決算書

収入の部				
単位:円				
科目	予算	決算	増減	備考
繰越金	2,922,431	2,922,431	0	
会費(190名)	1,254,500	1,235,000	▲19,500	3月入金@6500円@
Wi-Fi会費	38,500	45,000	7,000	3500円×13名
新聞賛助金	500,000		▲500,000	
雑収入	569	24	▲545	銀行利息
合計	4,716,000	4,202,955	▲513,045	

支出の部				
単位:円				
科目	予算	決算	増減	備考
総会費	10,000	0	10,000	
通信費	50,000	38,865	11,135	
印刷費	50,000	0	50,000	
慶弔費	100,000	44,000	56,000	
会合費	70,000	13,806	56,194	
事務費	180,000	73,777	106,223	
新入会員歓迎費	250,000	191,110	58,890	印鑑代
積立金	0	0	0	
広告宣伝費	400,000	51,040	348,960	HP管理費等
新聞発行費	0	0	0	
予備費	3,606,000	0	3,606,000	
合計	4,716,000	412,598	4,303,402	

収入の部合計	－	支出の部合計	=	差引き繰越金
¥4,202,955		¥412,598		¥3,790,357

以上、報告します。 茨陵会 会計担当 堀田 隆志
※その他の年度につきましては茨陵会HPをご覧ください

新聞発行に際して、ご寄付のお願い

平素は、本会の運営にご支持、ご理解いただきありがとうございます。同窓会新聞も今回で第11号を発行する運びとなりました。皆様方からは、毎号多大なるご寄付をいただき、順調に新聞を発行できておりますことを、常任理事一同、感謝いたしております。

今回も新聞発行費用の寄付を募っております。1口 1,000円として、何口でも結構ですので、同封の振込用紙にて、振込みいただければ幸いです。(振込手数料が110円かかります)

事情と趣旨をご理解いただき、ご協力の程、宜しく願いいたします。